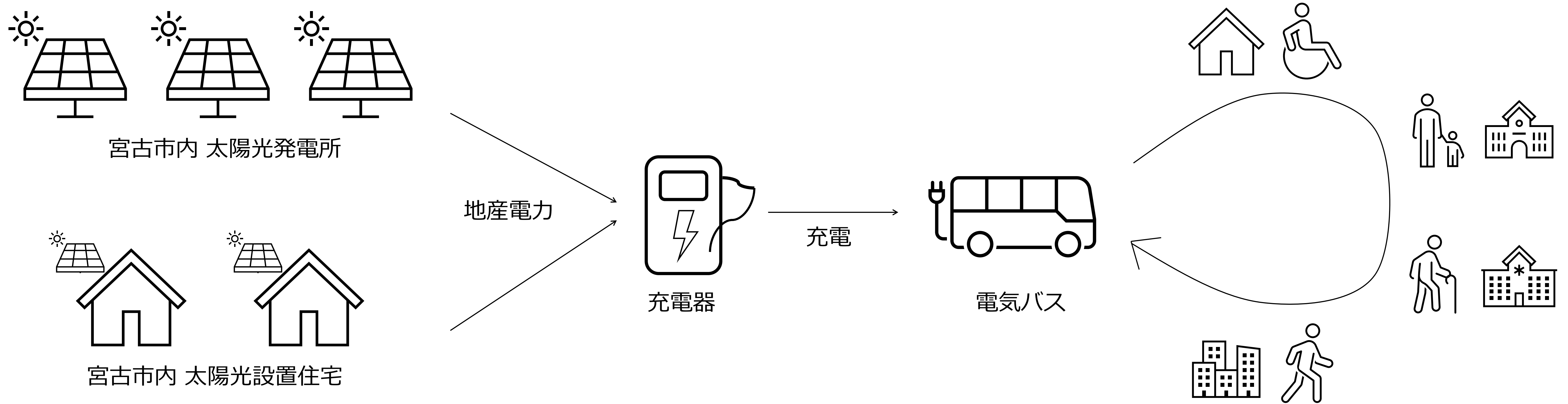


# 宮古市版シュタットベルケを活用した電力の地産地消による電気バス運行事業

## 本事業の概要

- 国土交通省による令和6年度共創・MaaS実証プロジェクトに採択された実証事業
- 宮古市の持続的な公共交通の実現に向けて、官民連携の交通×電力領域の関係者にて構築されたプラットフォーム主体の事業
- 市民に対し公共交通の担い手である当事者意識を醸成し、利用者増加に伴う運送収入の増額による持続的な公共交通を目指す
- 宮古市産の太陽光発電電力(地産電力)を利用した電気バスが市内を運行し、本事業を市民に周知することで利用促進を図る



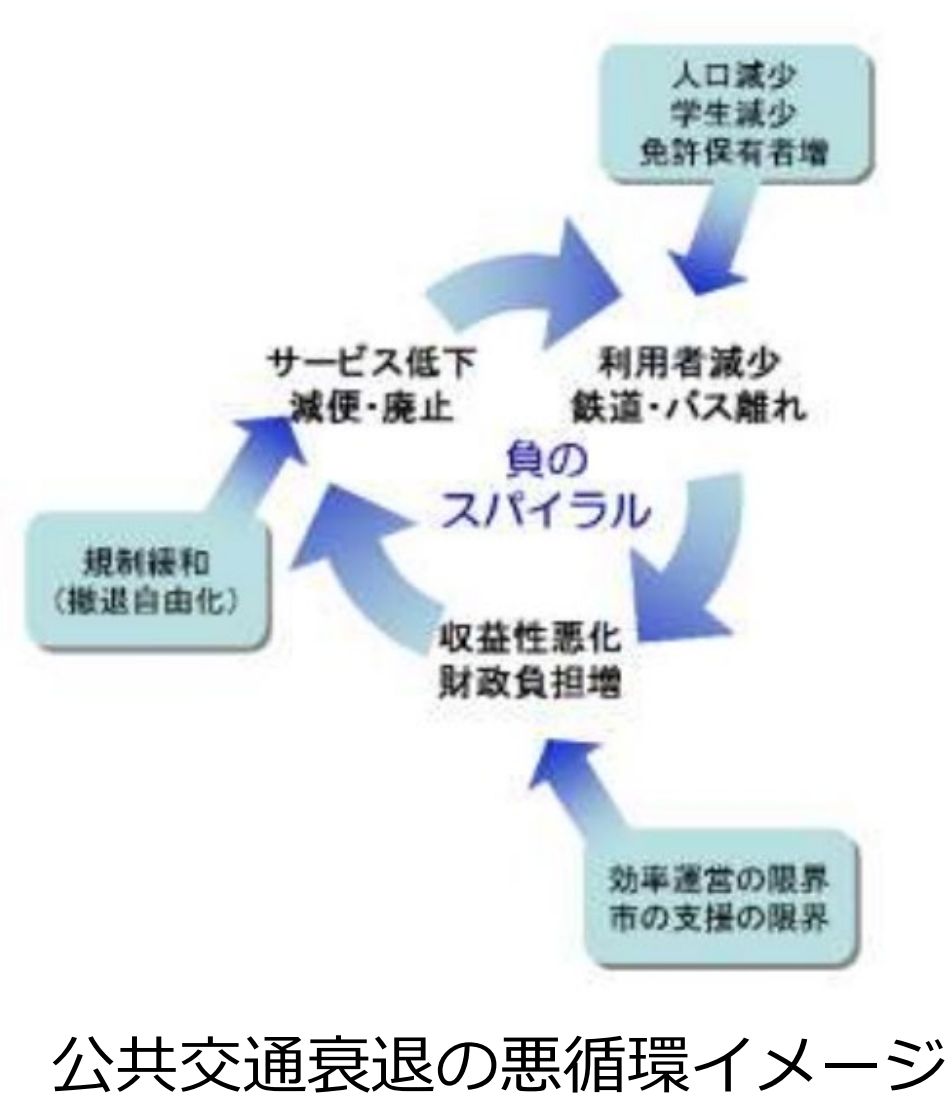
## 宮古市の目指す姿

### 「みんなで作る みんながつながる 公共交通」

- 多様な交通機関が連携し「広い市域がつながる」公共交通の実現  
→地域における輸送資源を総動員し、持続可能な公共交通の実現
- 参画と共同による「みんなで作る」公共交通の実現  
→多様な主体が責任と役割を分かち合いながら協力する公共交通の実現
- みんなで利用し支え「次の世代につながる」公共交通の実現  
→みんなが利用したくなる公共交通をつくり、様々な形でみんなが利用して支える公共交通の実現

## 宮古市の課題

宮古市の課題の一つに「利用者の低迷と公共交通の衰退」が挙げられる。人口減少や高齢化、マイカー増加で公共交通環境が悪化。市の財政負担増加が予想される中、持続可能な交通ネットワーク構築には市民議論が必要。利用者減少によるバス路線補助金カットのリスクもあり、公共交通衰退の悪循環加速が懸念される。

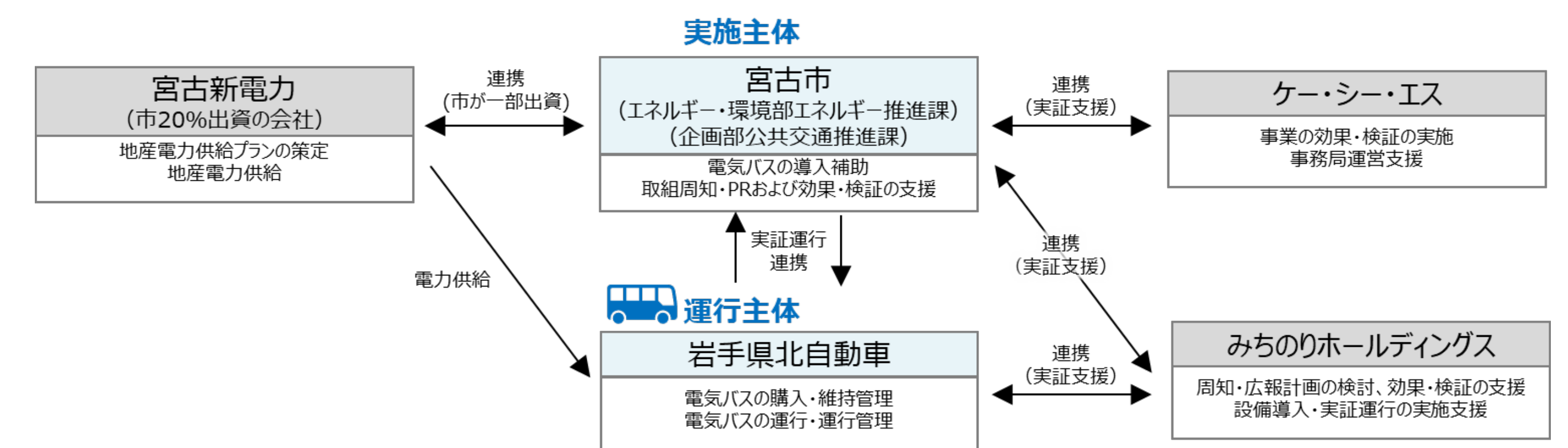


## 本事業の目的・目標

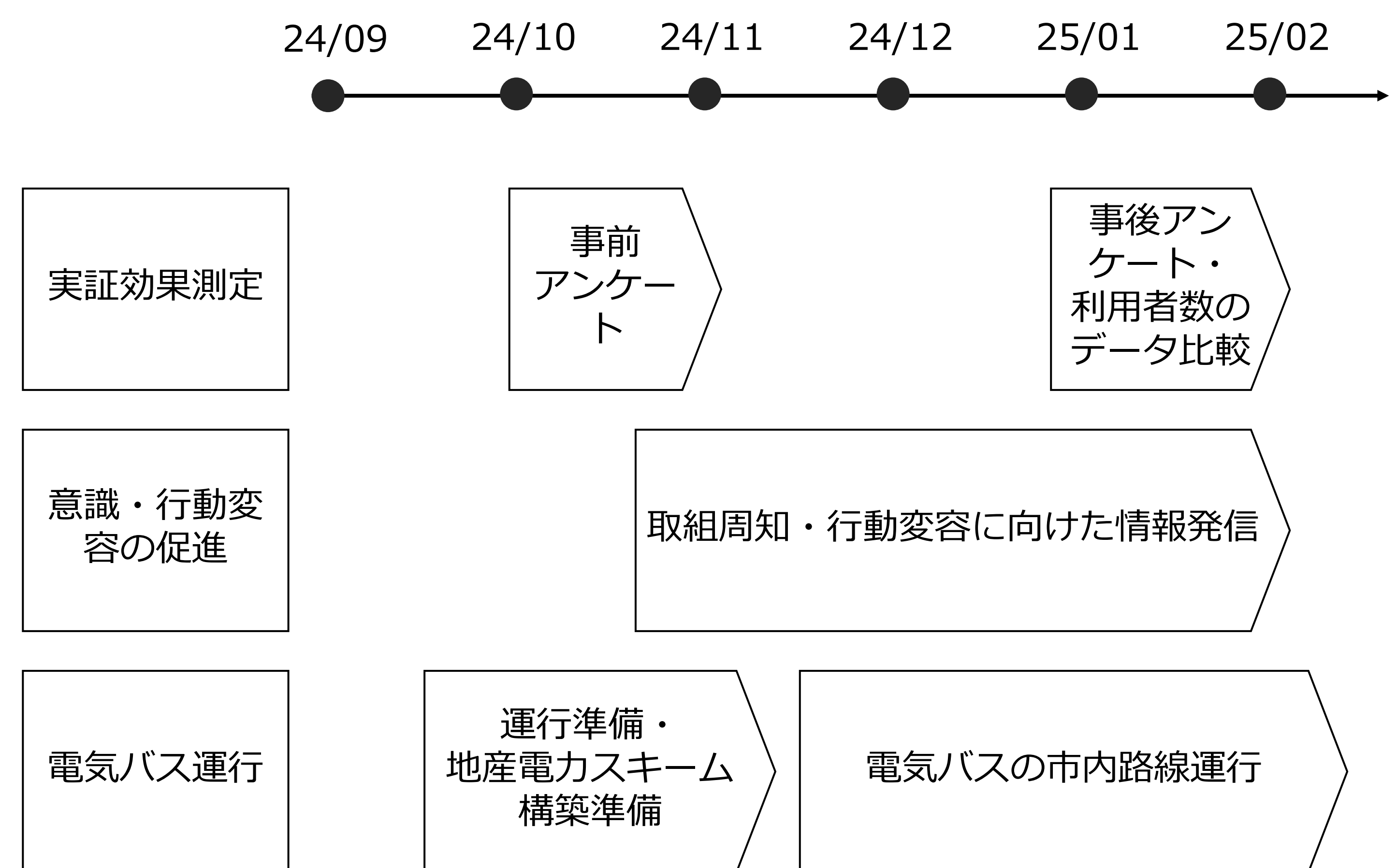
- 電力の地産地消スキームの構築と電気バスの運行をきっかけに、市民の公共交通への関心を高める
- 公共交通の維持には市民の利用が重要であることを周知し、市民の公共交通利用を促進する
- 利用回数ならびに利用者数増加とそれに伴う運送収入の増額によって、本市の課題である公共交通衰退の悪循環の脱却を目指す
- 電力の地産地消スキームを構築し、市外から調達する電力が減ることで市内の経済循環を促進する

## 事業詳細

### 事業を実施するプラットフォーム構成



### 実施内容・スケジュール



### 宮古市版シュタットベルケ

様々な再生可能エネルギー事業へ市が資本参加することにより得られる収益を、再生可能エネルギー基金を通じて、公共交通の維持・確保など地域課題の解決のための財源として活用する仕組み。

※シュタットベルケ：ドイツの自治体出資公社。電気・ガス・水道・交通等の公共インフラを整備・運営。民間企業として経営し、エネルギー事業の利益を地域公共交通など収益性の低い公共サービスに補填。地域の公益を安定的に提供。

### 共創・MaaS実証プロジェクト

地域公共交通の持続可能性確保が課題となっているなかで、多様な関係者の「共創」により交通ネットワークの「リ・デザイン」を進め、利便性・生産性・持続可能性の向上を目指す。本事業では、この「共創」の取り組みに対し、実証事業への補助と実地伴走型フォローを行って課題を整理。得られた知見を他地域へ横展開し、地域公共交通の再構築を全国的に推進する。